

藝

GEI RIN

林

第五十六卷 第一号
平成十九年四月

昭和天皇の御製抄

山々の色はあらたにみゆれども わがまつりごといかにかあるらむ

(昭和三年、満二十七歳。十一月、即位礼・大嘗祭)

西東むつまひはして栄ゆかむ 世をこそ祈れ年のはじめに

(昭和十五年、満三十九歳。十一月、皇紀二千六百年記念式典)

國がらをただ守らんといばら道 すすみゆくともいくさとめけり

(昭和二十年、満四十四歳。八月、停戦の玉音放送)

ふりつもるみ雪にたへて色かへぬ 松ぞ雄々しき人もかくあれ

(昭和二十二年、満四十五歳。十一月、日本國憲法公布)

わが庭の初穂ささげて来む年の みより祈りつ五十鈴の宮に

(昭和三十年、満五十四歳。十月、伊勢神宮の神嘗祭)

戦ひて共にいたつきし人々は あつくもわれらを迎へくれける

(昭和四十六年、満七十歳。十月、両陛下御訪欧)

遠つおやのしろしめたる大和路の 歴史をしのびけふも旅ゆく

(昭和六十年、満八十四歳。翌春、御在位六十年奉祝式典)

やすらけき世を祈りしもいまだならず くやしくもあるかきさしみゆれど

(昭和六十三年、満八十七歳。八月、全国戦没者追悼式御臨席)